県建設コンサルタンツ協会総会

新会長に岩井氏選出

岩井 健新会長

県建設コンサルタンツ協会（上野篤秀会長）は27日、鹿児島市の鹿児島東急ホテルで16年度通常総会を開き、技術研修会及び各種講習会の開催等を柱とする新年度事業計画などを決めたほか、任期満了に伴う役員改選では新会長に岩井健氏（三州技術コンサルタント㈱）を選出した。

総会では冒頭、上野会長が「公共事業予算の減少等による厳しい環境下で生き残るためには技術力と経営力の向上に努めるしかない。昨年11月、道路・河川・砂防・橋梁・農業土木の五つの専門部会の成果発表会を初めて実施したところだが、素晴らしい研修会となった。今年度もより一層の活動推進を図ってまいりたい」と挨拶。

新役員の紹介などもあった総会＝鹿児島市の鹿児島東急ホテルで

引き続き、西久保正人氏（㈱久永コンサルタント）を議長に選出して議案審議に移り、15年度事業報告・収支決算、16年度事業計画・予算案などを議長に選出して議案審議に移り可決承認した。また、任期満了に伴う役員改選では、新会長に岩井氏を選出したほか、新執行部体制を決めた。

岩井新会長は「会員各位のご協力・ご指導をいただきながら、公益法人として地域社会発展に貢献してまいりたい」と抱負を述べた。

新年度事業計画は、①技術力向上を図るための技術研修会及び各種講習会の開催②経営研究会の開催③建コンかごしまの発行・配布④5団体共催の新年賀詞交換会－などを掲げている。

新役員は次の通り（㊐印は新任）。

会長＝岩井健（㈱建設技術コンサルタンツ）▽副会長＝安水節（㈱建設技術コンサルタンツ）福田光一（大福コンサルタント㈱）▽理事＝山内康功（㈱大進）塚田秀麿（㈱アジア技術コンサルタンツ）㊐安永幸信（㈱国土技術コンサルタンツ）㊐萩原敏

県板金塗装工業協組鹿児島支部総会

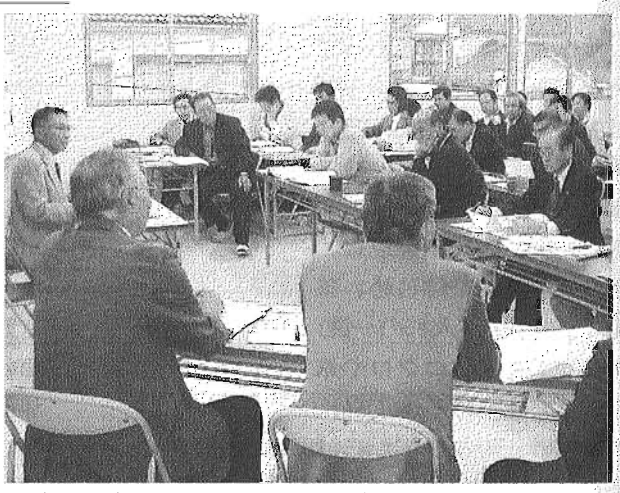
組合組織の強化拡大を

県板金塗装工業協同組合鹿児島支部（坂之上建一支部長）はこのほど、鹿児島市の県板金塗装工業協同組合会館で第32回通常総会を開き、組合組織の強化拡大を柱とする16年度事業計画を決めた。

総会の冒頭、坂之上支部長が「厳しい社会状況ではあるが、会員一同が一致団結して乗り切っていきましょう」と挨拶の後、大平集一県板金塗装工業協同組合理事長が「新しい組合会館も無事完成しました。今後は大いに活用して頂き、組合活性化につなげてほしい」と呼び掛けた。

引き続き、坂之上支部長を議長に選出して議案審議に移り、15年度事業報告・収支決算、16年度事業計画・予算案等を慎重に審議、執行部の原案通り可決承認したほか、新入会員4社の紹介も行われた。

新しい事業計画は①支部の活性化として組合加入の促進に努める②各班の活性化へ向けて定期的に会合を開催し情報交換を行う③情報の提供④本部組合が実施する行事に対する協力参加－などを掲げている。このうち、組合加入の促進については、会員であるメリットをいかに広めるかの広報活動促進や会員限定の講習会、研修会開催などの意見が出された。


会員限定の講習会、研修会開催などの意見が出された総会＝鹿児島市の県板金塗装工業協同組合会館で

新入会員は次の通り。

【新入会員】田中一裕（アートハウジング）田平徹美（田平塗装）濱田光廣（ハマダ建装）廣田久徳（有）コスミック）

県防災研修センターが開所

県民の防災意識高揚へ

係員の説明を聞く須賀知事ら＝姶良町の現地で

県防災研修センターの開所式が27日、姶良郡姶良町の現地で開かれ、須賀龍郎県知事や川原秀男県議会議長、福元久夫姶良町長ら多くの関係者が出席して供用開始を祝った。

大口市消防団のファンファーレで始まった式典では、須賀知事が「防災に関する教育・研修等を実施する立派な施設が完成した。今後も災害のない安全な県土づくりにまい進していきたい」と挨拶。来賓を代表して川原議長、福元町長が「台風や地震など多岐にわたる自然災害に対応できるよう、県民自らが防災意識を確立しなければならない。センターの完成が、防災に関する啓蒙となることを確信する」とそれぞれの立場から祝辞を寄せた。

続いて、野口晉孝鹿児島地方気象台長や渡邊眞一郎県消防長会長、五領國雄県消防協会長ら来賓紹介の後、須賀知事、川原議長、福元町長、酒匂卓郎県議、隼人町のあさひ幼稚園の庵下友志君、住吉季利ちゃんがテープカットを行った。

同センターは、同町平松の旧埋蔵文化センター施設を活用して、平成12年に基本構想を策定、14年度から実施設計、展示製作等に着手し、15年度に完成した。総事業費は約3億2433万円。本県の災害の歴史、メカニズム等が展示されるほか、応急救護訓練室、防災研修室等を備えている。

交通遺児基金で感謝状

鹿児島市は27日、交通事故の撲滅や交通安全を願って寄せられた寄付を積み立てている「交通遺児見舞金積立基金」に対し、15年10月から16年3月までに善意ある寄付をした鹿児島市交通安全施設工事業協会に感謝状を贈呈した。

赤崎市長から感謝状を手渡される牧会長（右）＝鹿児島市役所で

市長室で行われた贈呈式では、赤崎市長が感謝状を授与。「暖かい寄付に感謝しています。同市内には35人の交通遺児がおり、この子供たちが素直にのびのびと育ってほしいとの願いから、年に2回見舞品として図書券を贈呈しています。寄付は有効に

癒しの島体験交流施設整備

予定地を大浜公園に

名瀬市

名瀬市が計画する「癒しの島体験交流施設整備事業」の第2回検討委員会が27日、名瀬市役所であり、同施設の建設予定地を大浜海浜公園プール敷地及び奥休有地に絞り、タイプは医療機能付健康増進・観光保養リゾート複合型の施設として今後作業を進めていくことを決めた。

会では、初めに同施設基本構想に携わった㈱タラソシステムジャパンの野田史取締役が資料をもとに立地環境調査、資源調査、商圏等の説明を行い、同施設の候補地として挙がっていた大浜海浜公園プール敷地及び奥休有地、同第2駐車場、浜里町のコミュニティ広場、知名瀬港背後地、下水道終末処理場内の5カ所の中から、奄美の美しい海に面し名瀬市民にとって交通の便も良く観光客の要望にも十分応えることができるという理由で、大浜海浜公園プール敷地及び奥休有地（約4500㎡）が最適という判断を示した。またタイプとしては精度の高い健康サービスが可能となる医療機能付健康増進・観光保養リゾート複合型が奄美には適しているとの調査結果を発表した。

同結果を受け委員会では、建設予定地を大浜海浜公園プール敷地及び奥休有地に絞り、タイプは医療機能付健康増進・観光保養リゾート複合型の方向で進めることを全員一致で決めた。市としては今後議会などの同意を得ながら、夏頃には正式決定したいとしている。

奄美のような美しい自然環境の中での医療機能付きタラソテラピー施設は世界でも例がなく、完成すれば初の施設となる。

建設予定地などを話し合った委員会＝名瀬市役所会議室で